

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02701

研究課題名(和文)同時バイリンガルのナラティブにおける言語間相互作用の研究

研究課題名(英文)Cross-linguistic influence in the narratives of simultaneous bilingual children

研究代表者

森 聡美 (MORI, Satomi)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：90305392

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：学童期の日英同時バイリンガル児の言語別ナラティブコーパスを構築し、各言語の語りに現れる(1)トピック維持(指示対象の導入、再導入、維持)ならびに(2)ナラティブ構造(因果、時系列)における言語間相互作用の有無、方向、程度について分析した。(1)では特に指示表現選択に複雑な判断を伴う再導入で英語から日本語への強い影響が観察され、(2)では双方向の影響が見られた。各領域における言語間の影響がバイリンガル固有の言語能力を特徴付けていることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

未だ数少ない日英バイリンガル児童のナラティブにおける言語間の影響、その長期的な分析を行い、言語間相互作用が幼児期の言語発達段階だけではなく、学童期のバイリンガル児童にも見られることを示した。また、トピック維持の分析からは、言語間の影響を「受けやすい構造」についての理論構築に貢献し、ナラティブ構造の分析においては事態把握の違いについては両言語の特徴が影響し合い再構築が生じるというモデルに貢献している。

複数言語環境下で育つ子供たちの言語能力の特徴を把握する研究として貴重なデータを提供しており、今後増加が予想されるバイリンガル児童の言語能力の理解の一助となることが期待される。

研究成果の概要(英文)：In the current study we constructed narrative corpus of Japanese-English school-age bilinguals, and analyzed the level as well as the directionality of cross-linguistic influence between the two languages in (1) topic maintenance (referent introduction, re-introduction and maintenance) and in (2) narrative structure of connecting events (use of connectives denoting causal relationship vs. temporality). Analysis (1) showed that the influence is most likely to occur at re-introduction which requires integration of various levels of information, and analysis (2) reports a bi-directional influence in how events are connected in the narratives, both of which contribute to the understanding of the unique characteristics of bilingual speech.

研究分野：バイリンガリズム、言語習得

キーワード：二言語習得 言語間相互作用 ナラティブ 日本語、英語 トピック維持 連結表現 同時バイリンガル 学童期バイリンガル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

・グローバル化を背景に、国内でも、日本語以外の母語をもつ海外につながる子供たちや外国語を通じた教育を受けるなど、幼少期から二言語環境で育つ子どもたちは確実に増えてきており、今後も増加の一途をたどることが予想される。

・このような状況下で、学校教育の現場や家庭内においてバイリンガル児の言語能力に関する正しい理解と適切な教育、指導は差し迫った課題であるが、研究は極めて少ない。

・これまでの二言語同時習得理論は、欧米諸国の構造が似通った二言語の幼少期の習得研究に基づき構築された未完成なものであり、また、一言語習得児との共通点に重きが置かれ、バイリンガルの言語の独自性については扱われてこなかった。

2. 研究の目的

・本研究は、学童期の日英同時バイリンガル児(早期継続バイリンガルも含む)の言語別ナラティブのコーパスを構築し、各言語の語りに現れる言語間の影響(相互作用)の分析を通して、バイリンガル固有の言語能力の特徴を明らかにし、新たな二言語同時習得理論を構築することを目的としている。具体的には、日本語と英語とで明らかかな相違がある(1)トピック維持、(2)ナラティブ構造の2領域において、言語間相互作用の有無、方向ならびにその程度 各言語の特徴がどのように混在しているのか を明らかにする。

3. 研究の方法

・学童期の日英同時バイリンガル児、早期継続バイリンガル児(8~12歳前後)における両言語間の相互作用の実態を調査するため、(1)トピック維持(指示対象の導入、再導入、維持各コンテキストにおける指示表現の選択)そして(2)ナラティブ構造(出来事間の連結表現使)に注目し、各領域において同年齢のモノリンガル児データとの比較を通して言語間の影響の有無、その方向性や程度を分析した。

・バイリンガル児のそれぞれの言語でのナラティブデータを約1年の間隔をあけて2回ずつ収集した。更に、言語間作用の有無の検証のための比較対象として、各言語のモノリンガル児のデータも同様に収集し、コーパスの作成を行った。上記3項目のコーディングと分析ソフトによる処理を行い、それぞれの領域においてバイリンガルとモノリンガルとの比較を通して言語間の影響の有無ならびに発達に伴う変化を検証した。

4. 研究成果

(1)トピック維持

・トピック維持分析では、各言語のナラティブにおける指示対象の導入、再導入、維持の各場面における指示表現選択(名詞句、代名詞、省略)を分析した結果、同時バイリンガル、早期継続バイリンガルいずれにおいても日本語のナラティブに英語の影響が観察された。具体的には、日本語話者であれば指示表現を省略する傾向にある場面において名詞句や代名詞等の使用が見られ、英語の構造の影響であると結論付けた(Mishina-Mori & Yujobo 2017, Mishina-Mori et al 2017, 2018a)。

・児童を対象とする研究においても言語間相互作用に関する仮説を支持する分析結果が得られたことから、幼少期限定の現象ではないことを示した。また、より成熟した言語使用者にも生ずることから、言語間作用の要因として言語処理上の特性についても考察した。

・日本語が優勢言語であるにも関わらず影響の方向性が英語から日本語の一方向であることが

確認され、仮説が優勢言語に左右されないこと、また、構造上の重複が少ないとされる二言語間においても同じ仮説で説明ができることの根拠を示した。

・さらに、言語処理上の特性に関わるという点に注目し、指示表現選択に複雑な判断を伴う再導入場面(導入と維持の両者の特徴を持ち合わせる)は他に比べ英語から日本語への強い影響があるという仮説を立て、これを支持するデータが得られた(Mishina-Mori et al 2019)。談話語用論上の判断を伴う構造においてはより影響が出やすいという仮説のより強い根拠づけを提供することで相互作用を「受けやすい構造」についての理論構築に貢献した。

(2)ナラティブ構造

・出来事間の連結表現使用(因果を表すもの、時系列を表すもの)について、長期的データに基づき言語間の影響とその経年変化を追跡調査した結果、第1回、第2回調査時のタイミングにおいても双方向の言語間相互作用が観察され、さらに第2回では両言語間の特徴の違いが小さくなっていることを指摘した(Mishina-Mori et al 2017, 2018b)。

・出来事の連結方法のように認知が強く影響する言語使用においては双方向の影響がみられ、さらには表現方法の再構築が生じる可能性を示唆した。

(1)、(2)のプロジェクトから得られた結果から、バイリンガルの言語習得において特徴的な言語間相互作用に関する理論構築(影響を受けやすい構造の特定)ならびに認知のレベルでの影響は言語使用パターンの再構築につながるというモデルに大きく貢献したといえる。

このように、複数言語環境下で育つ子供たちの言語能力の特徴を把握する研究として貴重なデータを提供しており、今後増加が予想されるバイリンガル児童の言語能力の理解の一助となることが期待される。

引用文献

Mishina-Mori, S. & Yujobo, Y. J. 2017. Referent introduction and maintenance in bilingual narratives: Is there a cross-linguistic influence? Hirakawa, M., Matthews, J., Otaki, K., Snape, N., & Umeda, M. (eds), *Proceedings of Pacific Second Language Research Forum 2016*, 145-149.

Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2017. Referential topic management in the two languages in Japanese-English bilingual children: Cross-linguistic influence in narratives. (Poster presentation). The 11th International Symposium on Bilingualism. (リムリック大学、アイランド) June 14, 2017.

Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2017. The use of connectives in Japanese-English bilingual children's elicited narratives. 第40回社会言語科学会(関西大学)2017年9月17日.

Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2018a. Cross-linguistic Influence in the Use of Referring Expressions in School-age Japanese-English Bilinguals. Bertolini, Anne B. and Kaplan, Maxwell J. (eds.), *Proceedings of the 42nd Annual Boston University Conference on Language Development*, 546-557. <http://www.cascadilla.com/buclid42toc.html>

Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2018b. Discursive transfer in connecting events in Japanese/English bilingual children's narratives. *The 10th Linguapax Asia International Symposium 2018* (筑波大学)

Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo, Y. J. 2019. Referent re-introduction in bilingual narratives: Is it more vulnerable to cross-linguistic influence? *The 12th International Symposium on Bilingualism*. (Poster session) (アルバータ大学、カナダ). June 23-28, 2019.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai and Yuri Jody Yujobo.	4. 巻 42
2. 論文標題 Cross-linguistic Influence in the Use of Referring Expressions in School-age Japanese-English Bilinguals.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 42nd Annual Boston University Conference on Language Development.	6. 最初と最後の頁 546-557
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai and Yuri Jody Yujobo.	4. 巻 16
2. 論文標題 Referent introduction and maintenance in the English narratives of bilingual and monolingual children.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Intercultural Communication Review	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Mishina-Mori & Yuri Jody Yujobo	4. 巻 1
2. 論文標題 Referent introduction and maintenance in bilingual narratives: Is there a cross-linguistic influence?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Hirakawa, M, Matthews, J., Otaki, K., Snape, N. & Umeda, M. (eds), Proceedings of the Pacific Second Language Research Forum 2016.	6. 最初と最後の頁 145-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件／うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo J.Y.
2. 発表標題 Discursive transfer in connecting events in Japanese/English bilingual children's narratives
3. 学会等名 The 10th Linguapax Asia International Symposium 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Kawanishi, Y., Nagai, Y. & Yujobo J.Y.
2. 発表標題 Telling stories in the socially non-dominant language--An analysis of referring expressions among Japanese-English simultaneous and successive bilinguals
3. 学会等名 The Japanese Society for Language Sciences 20th Annual International Conference. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai and Yuri Jody Yujobo.
2. 発表標題 Referential topic management in the two languages in Japanese-English bilingual children: Cross-linguistic influence in narratives. (Poster presentation)
3. 学会等名 The 11th International Symposium on Bilingualism (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai and Yuri Jody Yujobo.
2. 発表標題 The use of connectives in Japanese-English bilingual children's elicited narratives.
3. 学会等名 第40回社会言語科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai and Yuri Jody Yujobo.
2. 発表標題 Referential expressions in the narratives of Japanese/English school-age simultaneous bilinguals: Interaction between the two languages.
3. 学会等名 Second Language Research Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai and Yuri Jody Yujobo.
2. 発表標題 Cross-linguistic influence in the use of referring expressions in school-age Japanese-English bilinguals (Poster presentation).
3. 学会等名 The 42nd Boston University Conference on Language Development. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satomi Mishina-Mori & Yuri Jody Yujobo
2. 発表標題 Referent introduction and maintenance in bilingual narratives: Is there a cross-linguistic influence?
3. 学会等名 Pacific Second Language Research Forum 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satomi Mishina-Mori, Yuki Nagai & Yuri Jody Yujobo
2. 発表標題 Referential topic management in the two languages in Japanese-English bilingual children: Cross-linguistic influence in narratives.
3. 学会等名 The 11th International Symposium on Bilingualism (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	祐乗坊 由利	玉川大学・ELFセンター・助教	
	(Yujobo Yuri)		
	(80773465)	(32639)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	中野 悠稀 (Nakano Yuki)	立教大学大学院・異文化コミュニケーション研究科・博士課程後期課程 (32686)	